

第18回

親と子の 古墳めぐり

2000/05/05



備陽史探訪の会

日 程 表

- 8 : 30 福山駅前集合
受付・トイレ
- 8 : 58 井笠バス「中条行」出発 *バス代：大人550円
子供280円
- 9 : 25 「宮ノ下」バス停に到着
- 9 : 30 中条八幡神社集合・あいさつ・トイレ
- 10 : 00 中条八幡神社出発！！
- 10 : 05 大坊古墳到着・見学
- 11 : 00 安光古墳群到着・見学
- 12 : 00 「せんだんの家」到着
トイレ休憩
製鉄遺跡見学
- 12 : 30 石鎚山古墳群到着
昼ごはん、古墳見学
- 13 : 45 出発
- 14 : 00 猪の子第1号古墳到着・見学
- 14 : 45 江木神社境内にてお別れのあいさつ、解散


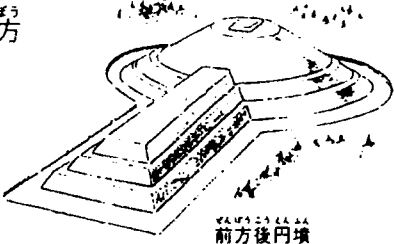
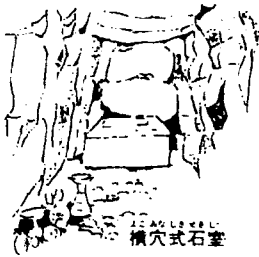



*トイレ…福山駅、中条八幡神社、せんだんの家にあります

*バス：井笠バス「東城別れ」福山行き…14 : 28

16 : 28

中国バス「東城別れ」福山行き…15 : 38



年代	時代	できごと
300	弥生時代	<p>邪馬台国の女王ヒミコが中国に使者を送る</p> <p>女王ヒミコ</p> 
	前期	<p>この頃から、前方後円墳がつくられはじめる</p>
400	古墳	<p>東日本でも、大型の前方後円墳がえられる</p>  <p>前方後円墳</p>
	中期	<p>近畿を中心に巨大な前方後円墳がさかんにつくられる</p>
500	古墳	<p>横穴式石室が、全国に広がる</p>  <p>横穴式石室</p>
	後期	<p>群集墳がつくられる</p>  <p>群集墳</p>
600	終末期	<p>聖徳太子が摂政となる</p> <p>大化の改新</p> <p>大きな古墳はほとんどつくられなくなる</p> <p>各地で寺院がえられる</p>  
	飛鳥時代	<p>奈良に都（平城京）がえられる</p>
700	奈良時代	

古墳時代とは…

いまからおよそ1700年前、弥生時代が終わった紀元約300年頃から700年頃までの400年間は、巨大な墓づくりが行われた時代でした。そこでこの時代を「古墳時代」といいます。

弥生時代にも墳丘墓と呼ばれる大きな墓がつけられました。これらの墓は、各地域ごとに独自につくられ、形にもいろいろありました。ところが古墳時代には全国的に共通した形と内容をもつ古墳がつけられました。

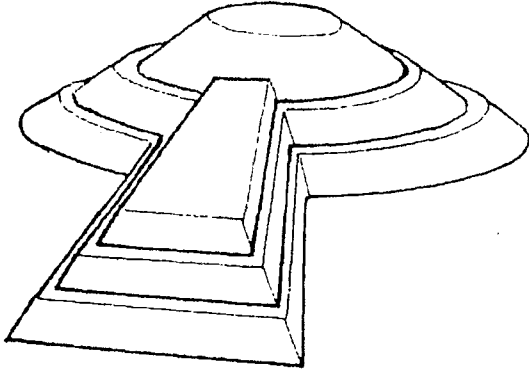
各地域のリーダーである有力者は巨大な墓である古墳に葬られましたが、古墳はただの墓でなく、儀式を行う場所でもあり、近畿地方のヤマト政権とのつながりの深さを各地域で確かめる場所でもあったのです。

400年におよぶ古墳時代には、少しずつ変化があります。この古墳の変化から古墳時代は大きく、前期、中期、後期、終末期に分けられます。古墳時代は各種の技術が大きく発展した時代でした。鉄の道具、武器武具や各種の工芸品の生産がさかんになり、これらの生産が集中する地域もでき、それらにはヤマト政権が深くかかわっていきました。

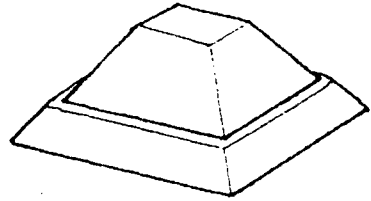
古墳時代はこのような背景をもつヤマト政権が中心となって、日本が一つのまとまった国家として姿をあらわしはじめた時代なのです。

こふん
●古墳のかたち

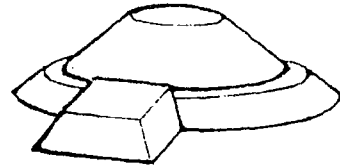
ぜんほうこうえんふん
前方後円墳



ほうふん
方墳



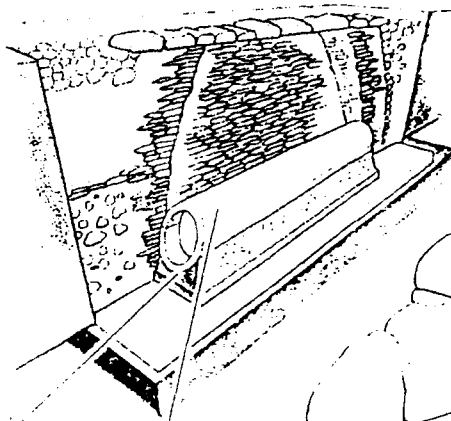
ほたてがいしきこふん
帆立貝式古墳



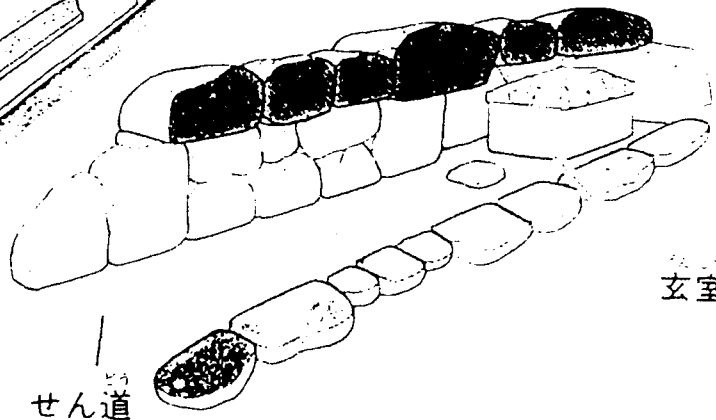
えんふん
円墳



たてあなしきせきしつ
竪穴式石室



よこあなしきせきしつ
横穴式石室



ねんどい
粘土床

わりたけがた
割竹形
もくくわん
木棺

せんどう
| 土
道

えんしつ
玄室

古墳時代の服装

古墳人の^{ふくそう}服装や^{そうしんぐ}装身具は、^{じんぶつはにわ}人物埴輪や古墳の^{ふくそうひん}副葬品から考えることができます。

男子は^{うわぎ}上着と^{はかま}袴と呼ばれるズボン、女子は^も上着と^{おび}裳と呼ばれるスカートでした。上着は男女の^{くべつ}区別はほとんどなく、^{こし}腰の下くらいまでの長さがあり、右前にあわせて^{ひも}二カ所を紐で結びあわせるのが一般的でした。腰の上部に^{おび}帯を結ぶ場合が多いようです。男子の袴は^{ひざ}膝あたりを上から^{しば}縛り、ふとももの部分を大きく^{あしゆい}ふくらませるようにしています。この紐は「^{あしゆい}足結」と呼ばれ、これに^{すず}鈴をつけた^{かみ}埴輪も見られます。髪は男子が^ゆみずらに^ゆ結い、女子は^{まげ}まげを結って、^{つか}かんざしやくしも使いました。



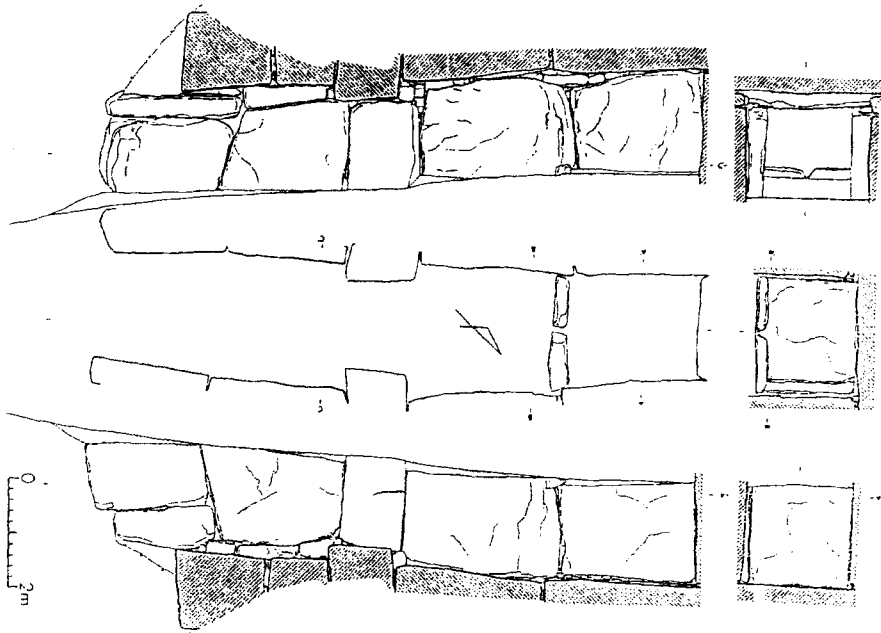
👉 これから見学する古墳

1. 大坊古墳（だいぼうこふん）

きゅうりょう ひがしがわしやめん りょう きず ちよつけいやく えんふん
丘陵の東側斜面を利用して築かれた直径約14mの円墳で、この古墳で
きりいしじょう かこうがん よこあなしきせきしつ
は大型の切石状の花崗岩を使った横穴式石室を見学できます。

せきしつ ぜんちよう はば たか
石室の全長は11.2m、幅は1.9m、高さも1.9mある大きなもの
です。石室のほぼ中央付近には両側に石柱が立てられていて遺体を葬る部
屋（げんしつ つうろく せんどう）とがほぼ同じ大きさで作られています。使われてい
る石材は大きなものでさゆうりょうがわとも同じくらいの大きさの石を使い、同じ数
でつくってあります。

この古墳はせきちゆうで分けられた部屋（へや）の大きさがほぼ同じ大きさであること、
きりいしじょうもち
切石状の石が用いられていることから横穴式石室の中でも新しい時代のもの
と言え、こふんじだい お 7せい きまえはんころ ちくぞう
古墳時代も終わりに近い7世紀前半頃の築造と考えられています。



2. 安光古墳群（やすみつこふんぐん）

山の斜面を利用して幅数10mの範囲に小さな古墳が作られ、現在5基の古墳が確認されています。その中でも最大規模のものが『カンカン石古墳』と呼ばれている古墳です。この古墳の形はかなり崩れているものの、全長約7.8m、幅1.5mの横穴式石室が残っています。石室は通路である羨道の部分が遺体を葬る部分である玄室の一方の壁に寄っている「片袖式石室」と呼ばれているものです。

この「安光古墳群」は、谷の奥まった所にあるとはいえ、遠く神辺平野を望むこともできるので、安光地区を中心に勢力をもった人々が古墳を築くのにふさわしい場所ともいえます。

3. 吹越古墳群（ふきこしこふんぐん）

現在の住宅団地の部分にあった菱原池に向かって延びる尾根の上に円墳5基、方墳3基の計8基の古墳がありました。これらの古墳は住宅団地造成にともなう発掘調査で、板石状の石材を組み合わせた「箱式石棺」や、組み合わせ式の木棺を埋葬に使っていて、築かれた年代も、出土した遺物から古墳時代中期の5世紀前半から古墳時代後期の6世紀後半代に至る長期間に築かれたということがわかりました。これらの古墳は工事によって消滅してしまいましたが、加茂川東側のこの地域に有力な勢力を持った人々が長い間にわたって存在していたことを示す古墳群であると言えます。

ぐんしゅうふん
群集墳 とは？…

その名のとおり、小さな古墳
が狭い範囲にたくさん集まって
作られている状態をいい、古墳
時代の6世紀代に全国で見られる傾向です。



この群集墳は—

- ① 山の斜面や谷などを利用して、②主に直径
10メートルくらいの小型の円墳が、③数十年
の期間に数基から数10基が集中的に築かれ
ていて、④横穴式石室をもつものが多く、
⑤いずれも副葬品はわずか、なのが特徴です。

群集墳が築かれたということは、それまで
一部の有力者しか作れなかった古墳が小地域
単位での有力者のレベルまで古墳を作れるよ
うになってきたということを示しています。

備陽史探訪の会編『古墳探訪』より要約

4. 石鎚山古墳群 (いしづちやまこふんぐん)

この古墳群は2基の古墳で成り立っています。尾根の先端にある『石鎚山第1号古墳』は直径20m、高さ約3mの円墳で裾の部分と墳丘の中腹あたりにそれぞれ石が並べられていました。これは「列石」と呼ばれ、弥生時代から古墳時代はじめの4世紀ごろの墓に見られるもので、福山市周辺ではとても珍しいものです。第1号古墳では古墳のほぼ中央とその南東側の2カ所に埋葬施設(竪穴式石室)が確認されました。中央部の石室からは壮年の男性人骨とともに中国製の鏡、多数の勾玉や管玉、鉄製工具などが出土しました。特に中国製の鏡は中国の三国時代(3世紀)に作られた「斜縁二神二獣鏡」と呼ばれるもので、こうした中国製の鏡を持っていることは、ここに葬られた人の勢力が大きかったことを物語っています。また、南東側の石室からは武器類や装身具が出土しました。

石鎚山第2号古墳は直径16m、高さ約2mの円墳で、埋葬施設は木棺を直接埋めたものと、木棺を粘土で覆ったもの(粘土槨)の2つが確認されました。木棺を直接埋めた方からは中国製の鏡の破片や鉄製工具類が出土しています。鏡は中国の漢の時代に作られた「内行花文鏡」と呼ばれるもので、これも古墳時代前期の古墳から出土しているものです。

石鎚山古墳群は古墳時代前期の4世紀後半から5世紀前半にかけて築かれたと考えられています。なかでも第1号古墳は芦田川下流域でも最も古い古墳のひとつと考えられています。古墳の築かれた尾根に立つてみるとはるかに加茂平野を見わたすことができる絶好の場所にあり、このことからこの古墳群に葬られた人の勢力がわかります。

5. 猪の子第1号古墳（いのこだい1ごうこふん）

古墳はかなり削られているために、もとの形が円墳なのか方墳なのかはっきりしませんが、方墳であれば一辺が14m、高さが3mの大きさと言えます。

この古墳は「終末期古墳」と呼ばれるもののひとつです。「終末期古墳」とは、すでに全国的に古墳が作られなくなった7世紀後半の時代のもので、数自体が非常に少ない珍しい古墳です。そのうえ横穴式石室ではなくて、花崗岩の切石を用いて、一体をやっと葬ることができる程度の狭い埋葬施設（横口式石槨）しか持たないところにも特徴があります。

この古墳の埋葬施設はほぼ南に向かって、花崗岩の切石を組み合わせたもので、全長約6.7mあります。羨道部の方が石槨部よりも幅広く、長いところに特徴があります。石槨部は奥壁・側壁・天井・床と各一枚の切石を用い、羨道部には側壁・天井ともに二枚の切石を用いています。また、石と石の隙間には漆喰が残っているのもわかります。

この古墳からの出土品はわかっていませんが埋葬施設の特徴から七世紀後半のものと考えられます。



資料作成：古墳研究部会 山口哲晶